

2013年度 第3回 OLC 藤倉記念コンペ 表彰

公益社団法人日本グライダークラブ
OLC 藤倉記念コンペ 事務局 (丸山・早乙女)

日本グライダークラブでは 2011 年度より OLC (オンラインコンテスト) を利用したグライダー競技会を開催させて頂いており、2013 年度は第 3 回の開催となりました。2013 年度開催要項は JSA インフォメーション 299 号 (2013/3 月号) に掲載させて頂きました。結果発表が遅くなりましたがここに結果発表をさせて頂きます。

参加者名	所属クラブ	合計ポイント	フライト 1	フライト 2	フライト 3	フライト 4	フライト 5	フライト 6
1 齋藤 岳志	宮城県航空協会	3122.72	685.13pt. (27.04)	684.22pt. (03.05)	531.51pt. (23.03)	457.79pt. (16.02)	395.38pt. (13.04)	368.69pt. (04.01)
2 茂田 慶一	長野グライダー協会	2328.26	581.86pt. (19.04)	516.78pt. (04.05)	492.32pt. (02.05)	472.52pt. (16.03)	147.64pt. (12.01)	117.15pt. (01.06)
3 石山 滋	長野グライダー協会	2284.82	617.55pt. (19.04)	589.58pt. (02.05)	415.66pt. (05.05)	356.28pt. (09.03)	153.69pt. (24.11)	152.06pt. (10.02)
4 田上 研之	日本グライダークラブ	1994.91	471.82pt. (28.04)	408.26pt. (27.04)	360.28pt. (05.05)	276.26pt. (18.11)	243.98pt. (10.02)	234.31pt. (27.01)
5 井上 喜博	日本モーターグライダークラブ	1539.74	354.53pt. (03.05)	350.51pt. (28.04)	297.71pt. (05.05)	208.67pt. (29.09)	164.28pt. (12.05)	164.04pt. (10.02)
6 正野 篤士	長野グライダー協会	1455.55	505.34pt. (03.05)	363.55pt. (04.05)	301.00pt. (27.04)	114.49pt. (30.03)	86.02pt. (21.10)	85.16pt. (10.08)
7 早乙女啓二	日本グライダークラブ	1378.79	317.98pt. (03.05)	237.71pt. (13.04)	222.90pt. (28.04)	210.03pt. (29.09)	200.43pt. (04.05)	189.73pt. (18.08)
8 小関 晴久	東京グライダークラブ	1263.98	273.05pt. (03.05)	250.53pt. (12.04)	211.01pt. (04.05)	195.08pt. (27.04)	174.51pt. (28.04)	159.81pt. (13.04)
9 種田 淳	長野グライダー協会	1204.49	401.19pt. (29.04)	183.76pt. (23.02)	172.61pt. (02.05)	165.14pt. (28.04)	162.23pt. (22.02)	119.57pt. (23.06)
10 河合 隆久	東京グライダークラブ	1151.35	213.50pt. (11.02)	212.96pt. (13.04)	199.95pt. (04.05)	183.15pt. (05.05)	180.25pt. (23.02)	161.52pt. (21.09)

2013 年度は宮城県航空協会の齋藤さんが優勝されました！おめでとうございます。OLC 藤倉記念の始まった 2011 年度は 34 名の参加者、上位 10 名の滑空場は長野滑空場、板倉滑空場でそれぞれ 5 名づつでしたが、2012 年度は 43 名、2013 年度は 62 名に増えており、上位 10 名の滑空場をみても大利根、小山が入り、着々と普及していることが窺えます。2013 年度は春の連休が天候に恵まれ、連休中のフライトが多く見られます。齋藤さんより、喜びのコメントを頂いております。

この度は、第 3 回藤倉記念コンペにて表彰頂き、誠に光栄です。2012-2013 シーズンは気象条件に恵まれ、週末に WAVE コンディションが多く重なりました。実は、シーズン中は以下のテーマを心がけて飛行しました。

- ①国際滑空記章の達成及び達成に向けたトレーニング。750km 章、1000km 章の達成を目標とする。
- ②練習機による XC デモフライト及びトレーニングフライトの実施。XC フライトの定常化を目指す。
- ③クラブ員による国際滑空記章の達成。50km、300km、3000m、5000m の達成。

①のテーマに関しては、750km TASK に 3 度挑戦するも、達成することはできませんでした。しかし TASK をキャンセルした後も Free Flight でなるべく長い距離を飛び、WAVE の上昇域の発生場所についてデータを収集することを心がけました。また練習フライトも多く実施させていただいたことから、多くのデータを得ることが出来ました。気象データと合わせて解析することにより、気象条件に合わせた旋回点の選択を可能にし、柔軟な TASK 設定を実現したいと考えています。

②のテーマでは、蔵王や栗子山ローカルで発生する弱い WAVE を丁寧に使い、XC に利用する事を意識してフライトしました。那須や、安達太良の WAVE を渡ることによって長距離飛行が可能なコンディションの日と比べ、ローカルな弱い WAVE は多く出現します。そういった条件を予測し、的確に利用すれば、クラブクラスの単座機や、練習用の複座機での FAI50km から 300km のバジフライトを量産できると考えています。今シーズンで成果があったのは 1 月 6 日の ASK21 でのフライトで、練習機で蔵王の第 1 波への波渡りに成功し、290km ほどの距離を飛ぶことが出来ました。今後 TASK を整理すれば、FAI300km のデモも可能になると思います。

③については残念ながら達成する事が出来ませんでした。教官が自分のフライトばかりに集中していたためではないかと反省しています…。2013-2014 のシーズンはこのテーマを最優先として取り組んでいます。1 人がたくさんのフライトを OLC に投稿するのではなく、多くの会員が XC の成果を投稿できる様にレベルアップを図ることが目標です。

また、個人的に嬉しい事が一つありました。5 月 3 日のフライトが現在話題となっているモロッコの Ouarzazate のフライトとならんで 2 位となったことです。「角田の気象条件を世界に向けて発信する」というのは、私が OLC に投稿する理由の一つですが、「KAKUDA」という地名が、多少なりとも世界の人々の目に留まる事が出来たのではと思っています。

以上、まとまりのないレポートで申し訳ありません。

当時は、定常的にフライトに参加できる教官が私 1 人で、私が自分自身のフライトをしてしまうと、クラブフライトが止まってしまうという状況でした。その中、これだけの成績を残せたのはクラブ員や、記録飛行時に駆けつけて下さった教官のご協力があってこそだと強く感じています。この場をお借りして感謝の意を表したいと思います。また、受賞に関しては、コンペへの参加をお誘いいただいた秋山様に感謝いたします。ありがとうございました。

アナウンスが遅くなりましたが 2014 年度第 4 回 OLC 藤倉記念コンペも引き続き実施しておりますので、ふるってご参加ください！